

令和6年度学校評価表 【年度末】

1 学校教育目標						
教育基本法並びに学校教育法の精神にのっとり、中学校教育の基礎にたつて、様々な学習活動を通して知識や技能を修得させ、個性豊かな良識ある社会人を育成する。						
2 中・長期的目標						
(1) 生徒が基本的な生活習慣を身につけ、社会や学校のルールやマナーを守ることの大切さを理解して行動するよう意識向上を図ります。 (2) 生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を維持し、生徒・教職員ともに授業を第一としてその改善に取り組み、基礎学力向上と知識・技能の習得を図ります。 (3) 生徒・教職員ともに思いやりの心をもって自分自身と他者を尊重し、「いじめ・体罰・ハラスメント」は「しない・させない・許さない」姿勢で臨み、学校が丸となってその防止に努めます。 (4) キャリア教育を充実させ、早期から進路意識の形成を支援し、学習や学校諸活動における協働的活動を通して自己実現と社会につながる力を高めます。 (5) 本校の教育活動について、ICT活用を推進し、情報発信に努めます。また、生徒・職員全員が保護者・地域と学校との関わりの大切さを認識し、地域に愛され、信頼される学校づくりを目指します。						
(A:おおむね達成されている B:部分的に達成されている C:達成されていない D:判断できない)						
3 中・長期的目標に基づく今年度の重点目標・具体的方策			年度末評価			
具体的目標と方策	評価の観点	A	B	C	D	成果と今後の課題
(1) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
① 《生徒会係》 生徒会の各委員会が、良い協力関係の構築・礼儀・モラル・地域連携などに係る具体的な目標を掲げ、主体的な活動に取り組む。	・具体的な目標を各委員会が設定できたか。 ・それに基づき、計画通り活動がなされたか。	19%	81%	0%	0%	・各委員会の目標・活動内容を計画し、1年を通して実行できた。生徒全員までの意識向上に向け更に活動していきたい。
② 《生徒会係・生徒指導係・図書防災清美係》 挨拶運動・清掃活動を、生徒会主体で継続的に行う。また職員個々が積極的に生徒への声掛けをし、挨拶・清掃活動を励行する。	・生徒会で活動の企画、継続的実施などができたか。 ・職員の声掛けによるあいさつの励行ができたか。 ・校内清掃を行い、校内美化への意識を向上させることができたか。	44%	52%	4%	0%	・校風確立週間に合わせ、執行部でも昇降口に立ち挨拶運動を行った。 ・立ち番などを通してあいさつや声かけを行い、生徒からの返事も一定程度返ってくるようになった。今後は校内でのあいさつや目礼が実行されるような雰囲気構築していきたい。 ・清美用品を充実させ、大掃除週間に年7回実施するなど、校内美化への意識は向上したと感じている。生徒が主体的に清美に努められるよう、委員による清美箇所を隔週でチェックするしくみ作りを模索していきたい。
③ 《生徒指導係・学年》 遅刻・早退・外出や服装や髪型・盗難・交通マナー・携帯電話やスマートフォンのマナーなどに係る規範意識の向上に努める。	・HRや授業、校風確立週間や街頭指導、昼の立ち番指導など、日々の学校生活を主として、規範意識が深められたか。	26%	56%	18%	0%	・髪型や服装などの身だしなみに関しては、改善しようとする姿勢はできてきている。しかし、繰り返し同じことをしてしまう生徒もいる現状である。交通マナーについては、大きな事故がなかったものの地域からの苦情は定期的にいただく。1年間を通して規範意識を高められるように呼びかけていきたい。
(2) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
① 《各教科》 授業公開などの実施を通じて、お互いによりわかる授業を目指す。	・各教科で授業公開等の実施をしたり、授業アンケートの結果を生かして授業改善等に役立てることができたか。	37%	48%	11%	4%	・初任者研修や教育課程委員としての公開授業、他校の授業参観などを通じて、情報交換や改善に努めた。生徒の様子や反応をもとに、情報共有を密にし、生徒の実態に合った授業が展開できるようにした。校内外授業公開は、見学者が少なく、有効性には疑問が残るが、様々な校内職員研修が開催されたり、授業アンケートが実施されたりするなど、客観的に自己の授業見つけ直す機会は増えた。
② 《学年・各教科》 課題等により、家庭学習・自学自習の習慣を身に付けさせる。	・学年、教科で課題（週末課題や長期休業課題等）が継続的に実施できたか。 ・昨年度に比べ、家庭学習時間が増えたか。 学校生活アンケートで検証する。	11%	74%	15%	0%	・週末課題や長期休業課題を課し継続的に実施した。また生徒たちの理解状況に応じた課題を作るなど学習課題も工夫した。計画的に継続して取り組む生徒がいる反面、提出期限前後で実施する生徒がいるため、学習習慣の確立にはまだ課題が残る。定期考査に向けての課題を通じて、基礎学力の向上には繋がったと感じている。
③ 《各職員》 正味50分の授業を実施するとともに、生徒の授業への遅刻をなくす。	・50分授業確保にむけての態勢づくりが出来たか。 ・ICT機器を用いるなどして生徒の学習の機会を提供することができたか。	26%	67%	7%	0%	・授業開始前に呼びかけたり、教室に行き指導したりするなど、50分授業を確保することができている。また、グループワークを多く取り入れ、生徒たちの意欲向上に努めた。ICTも活用し視覚的な学習要素も取り入れ、生徒たちの理解度が増したと感じている。ICTの活用は、生徒の学習以外にも教員間の情報共有にも活用できている。
④ 《学年・図書防災清美係》 図書館運営の基本方針に基づき活動し、読書意識の涵養を図る。	・たよりの発行等を通じて情報発信に努め、図書館の利活用につなげることができたか。 ・読書週間の設定により、読書意識の涵養をはかることができたか。	44%	56%	0%	0%	・委員会作成の「FromLibrary」や職員向けの図書館だより、年1回の「図書館報」の発行ができた。また掲示板を渡り廊下に設置してもらったので、今後の情報発信に活用していきたい。 ・春と秋に読書週間を行った。一斉読書では時間になると静かに始めることができたので、今後も事前の周知を徹底していきたい。
(3) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
① 《教務係・生徒指導係・各職員》 学校生活のきまりを明確にし、規律ある学習環境づくりを行い、すべての生徒が安心して学習できるようにする。	・学校生活や授業のきまりを生徒や保護者にわかりやすく明示し、周知することができたか。また、その徹底を図ることができたか。 ・HRや授業など様々な学校生活の場面において、機に応じた指導ができたか。	18%	78%	4%	0%	・校則をHPに掲載するための準備ができた。 ・危険行為での指導も何件もあり、引き続き学校とはどのような場所なのかを生徒へ伝えると共に生徒自身に考えてもらう必要がある。
② 《生徒会係・学年》 生徒会、学年各種行事を通じて団結力を高め生徒の集団づくりを促す。	・生徒自身が考え、協力し合い、成し遂げる喜びを体得できる支援ができたか。 ・生徒が他者のために貢献し、自己有用感が持てるよう、支援することができたか。	36%	56%	4%	4%	・三送会・対面式・生徒総会・松濤祭（クラス企画、学年企画、各係業務）・クラスマッチ・壮行会を通して企画・準備をし、実施した。生徒ができるだけ全面に出て進める形を作り、学校全体のために行動する意識を向上させることができた。
③ 《生徒指導係・生徒相談特別支援係・学年》 「いじめは絶対に許さない」姿勢を周知徹底させる。	・いじめ防止にかかわる学校の姿勢を生徒・保護者に対して発信、周知徹底ができたか。	48%	52%	0%	0%	・いじめ防止アンケートとその記述内容に応じて面談をていねいに行ってきた。一方でSNSなどのグループラインで交わされる意見がいじめの温床になりつつあるため、SNSの利用法やコミュニケーション能力の向上を目的に講演会を計画したい。
④ 《生徒指導係・生徒相談特別支援係》 いじめ防止に係る様々な研修会を実施し、日々の活動で人権意識の向上と多様性を認められるように努める。	・日々の教育活動・学校生活での生徒に対する指導において、常に言動・行動を見つめ直し、研修などを通して人権意識の向上に努めることができたか。	33%	67%	0%	0%	・いじめアンケートの結果をもとに、職員会議で共有が図られ、どのように対応すべきかを全職員で検討した。また、生徒支援という立場における研修会を実施し、どのようにアプローチすべきか、継続的な支援のあり方について話し合う場が職員間で持てた。
⑤ 《生徒指導係・学年》 人権に係る指導や面談を継続的に行い、暴力やいじめなどを見逃さない取り組みを強める。	・HRや授業など様々な学校生活の場面において日常的に機に応じた指導が行えたか。 ・暴力やいじめなどについて適切な指導がなされたか。	44%	56%	0%	0%	・いじめの指導に関しては、当事者を含めて当該クラスへの指導もすることができた。 ・いじめが疑われる行為について学年間で共有することができた。

(4) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《学年・進路指導係》 進路指導の方針や指導計画を、より具体的なものとし、全職員の共通理解を得る。	・より具体的な指導方針・計画が提示され、職員の共通認識が得られたか。 ・計画にもとづき、継続的な指導がHRで実践できたか。	44%	52%	4%	0%	・各学年とも、計画通りに進路行事を実施することができた。1年生では、当初の予定にはなかった企業ガイダンスを実施した。 ・おおよそ計画に沿った指導ができたが、進路希望の状況をみながら今後変更も必要である。
②《進路指導係》 進路に向けて生徒個々の意識向上への働きかけをする。(キャリア教育の推進)	・仕事への関心を持たせることができたか。 ・看護体験等の各種体験事業・インターンシップ・オープンキャンパスへの参加が拡大したか。	41%	55%	4%	0%	・1年生では、体験型の企業ガイダンスを実施した。早期のキャリア教育としては効果的であり、積極的に参加する姿勢がみられた。次年度でも実施を検討していきたい。 ・2年生を中心にインターンシップの参加者が増えた一方、例年よりオープンキャンパスに参加する生徒が少なかった。2年生の夏休みには進学希望者にオープンキャンパスへ積極的に参加させたい。
③《進路指導係》 組織的な進学・就職・公務員等それぞれの適切な指導を実施する。	・進学希望者、就職希望者、公務員希望者それぞれに対して指導が効果的に行えたか。	52%	44%	0%	4%	・進学希望者については、学校推薦型選抜や総合型選抜での受験が多数を占めるため、小論文対策や面接対策を計画的に実施してきた。就職希望者については、ハローワークによる講演やガイダンス、企業の担当者による模擬面接等を行った。また、7月からの求人票公開後に速やかに求人票が閲覧できるように工夫した。公務員希望者には、月2回の公務員講座の実施や、外部での講座や模試への参加への指導を行った。今年度は長野市消防と長野県警察への現役合格という結果であった。 ・本校の場合、特に面接指導が重要になっているため、外部講師による指導の他、多くの先生方に関わってもらいながら面接指導を行っている。
④《進路指導係》 生徒への継続的な進路相談の機会を提供する。	・進路相談(面談)を定期的に行うことができたか。	26%	66%	4%	4%	・3年生は6月に進路係による面談を行った。進路希望を確認し、担任と情報を共有しながら進路指導に努めた。 ・2年生は12月に実施し、進路希望に合わせたアドバイスをを行った。
(5) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《生徒指導係》 生徒指導のきまりや懲戒指針などが保護者に十分理解されているか。	・入学時やPTA総会、懇談会等の折に、全学年にわたり資料提示や説明がなされたか。	26%	66%	4%	4%	・周知をして、一定数は理解していただいていると感じる。しかし、入学年次だけの周知に留まらないようにしていきたい。 ・きまりを見直すための取り組みを開始することができた。
②《教務係・PTA同窓会係》 地域や保護者の学校への期待や要望をできる限り把握し、その内容を検討する。	・地元根差した学校評議員や地域住民の意見を学校評議員会や公開授業でのアンケートを通じて汲み上げることができたか。 ・学年および学級PTAなどの意見を積極的に汲み上げるなど、要望等を把握し内容を検討の上、フィードバックできたか。	30%	59%	0%	11%	・すべてのアンケートについて真摯に向き合い、改善につなげている。しかし、地域の声を聞かせていただける場面がなかなか取れなかった。 ・小学校・中学校にくらべ、保護者の目が学校に向いていない感がある。保護者が学校に目を向けてくれるような何らかのアプローチを考へることが、来年度の課題である。 ・PTA総会・学年PTA・学級PTAを開催し、情報発信や保護者の意見をいただくことができた。9月に学校職員と同窓会役員の懇談会を行い、創立120周年記念事業・松濤塾・高校再編などについて意見交換などを行うことが出来た。令和8年の120周年記念事業に向け更なる話し合いが必要である。
③《学年・教務係》 様々な機会をとらえた情報発信により、保護者や中学生・地域との連携を深める。	・定期的な学年通信・学級通信の発行、ホームページの更新などにより、保護者や中学生、地域の方々に様々な手段・方法を用いて情報提供を積極的に行うことができたか。	44%	52%	0%	4%	・オクレンジャー、ホームページ等を通して小まめな情報発信に努めた。近年、保護者と生徒のコミュニケーション不足により、情報がねじ曲がって伝わる場面が見られる。
④《生徒会係・各職員》 生徒会や職員が、地域と積極的に関わる。	・通学路の清掃活動を充実させることができたか。 ・地域の活動に積極的に参加することができたか。 ・職員の街頭指導により、挨拶や公共のマナーを向上させることができたか。	26%	63%	7%	4%	・昨年度より回数は少なかったが学校周辺の道路清掃を行った。また、松濤祭に向け周辺住民への挨拶周りをを行い、自分たちの活動についてのお願いを直接行った。更に、コロナ禍前より久しぶりに真田十萬石まつりの行列にボランティアに2年生執行部+有志にて参加し、地域の伝統行事に運営に参加できた。
⑤《PTA同窓会係》 総会・学年および学級PTAなどのあり方を工夫し、参加者の増加をめざす。	・しっかりアピールができたか。 ・参加率の増加が見られたか。 ・保護者・職員の協力が得られたか。	30%	59%	4%	7%	・PTAの各委員会の保護者の方のご協力により、活発に実施することができた。(大英寺前の交通指導・松濤祭での見守り活動・PTA新聞発行・校庭の除草・保健協議会実施) ・PTA総会・学年・学級PTAへのさらなる保護者の方のご参加を促すことが課題。